

令和6年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名

(所管課)

県民公園自然博物館

自然保護課

2 施設所在地

富山市婦中町吉住 1 - 1

3 施設設置年度

昭和 5 6

年度

4 設置目的

展示館と自然観察のためのフィールドを利用して、自然に親しみ学習する機会を提供し、自然保護思想の普及を図ることで、県民の教育向上ならびに福祉の増進に寄与することを目的とする。

5 施設概要

敷地面積：147,498㎡
自然博物館センター
・延床面積：726.54㎡
・構造：鉄筋コンクリート 2 階建
・施設内容：1 階 展示室、レクチャールーム
2 階 展示室、事務室、トイレ、研究資料室等
鳥獣保護センター
・延床面積：112.52㎡
・構造：管理棟 鉄筋コンクリート造平屋建 一部鉄筋金網造
・施設内容：救護室、飼育室 8 室
・関連施設：焼却施設
フィールド
・山林：約12.8ha
・園路：1 周約 2 km 自然観察路
・工作物：標識 1 基木造、バランスボード1基、
ライド遊具 3 基

6 指定管理者

公益財団法人富山県民福祉公園

7 指定期間

3

年

令和5年4月1日

～

令和8年3月31日

8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人） ※この他、参考となる指標があれば追加

R2	R3	R4	R5	R6
15,668	13,144	14,311	14,818	15,483

(2) 利用（使用）料金収入（千円）

R2	R3	R4	R5	R6
-	-	-	-	-

(3) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

R2	R3	R4	R5	R6
-	-	-	-	-

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

利用者数:665人増加(前年度比)
【評価】春は、コロナ禍後のレジャー動向が変化したこと、夏の猛暑、冬期の大雪の影響で、利用者の伸びは鈍かった。

(2) サービス向上に向けた取組み

駐車場からの園路については、案内標識の不足を補い、長い道のりが少しでも楽しくなるよう、クイズの設置や「ケンケンパ」を書くなど工夫している。

(3) 利用促進（収入増）に向けた取組み

・指定管理者制度を導入以来、マスコミや来館者などに対し、積極的に情報提供を行っている。
・令和5年12月にリニューアルしたHPは、携帯電話でのアクセスの向上、県民福祉公園が管理する他施設HPとのリンクの他、X、ブログを活用し、自然博物館や野鳥の園についてのイベント情報、開花情報、生き物の情報を積極的に発信し、利用促進に努めた。
・スタンプラリーなど関係施設との協調イベントの他、期間ごとに異なる生き物缶バッチを配布するなどの工夫に努めた。
・秋以降、冬期は、冬眠により展示生物が限られること、悪天候や積雪のため屋外での活動に制限があることから、来園者が自由に体験できる塗り絵、令和5年度から、ミツロウの型抜きによるクリスマスオーナメント作り、令和6年度は、森で見つけた様々な物を調べ箱に詰める「森の宝石箱」、森の整備で出た木の枝などを使った木のゴマ、「森の小人づくり」など、室内向けのプログラムを充実させている。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

①アンケート結果

実施方法	実施期間：通年、実施方法：入場時にアンケート用紙を配布
回答者数	回答者数：135人
結果	施設全般の満足度：「満足」「やや満足」97.5% また来たいか：「来たいと思う」「少し思う」97.8%
結果を踏まえた改善事項	令和4年度に91%であった満足度は、97.8%に増加し、また来たいと思う回答も98%に達している。令和4年度同様リピーターの利用が半数以上を占め、新規利用者は、40%を占めている。利用促進に向けては、来園者の安全と満足度を高めるため施設、屋外フィールドの適切な維持管理に努めるとともに、リピーターには、展示や自然体験プログラムを工夫し新たな発見を提供すること、新規利用者を呼び込むためには、出前講座や科学の祭典などの園外イベントへの積極的な参加により一定の効果があったと思われる。HP、Xなどを活用した情報発信など積極的なPRにも努めた。

②その他利用者の声を反映させる取組み

・意見箱の設置
・HPでのメールの活用
・ボランティアや利用団体等との意見交換

③主な苦情と対応

・引き出し展示の不具合。(対応:その後修繕を行った。)
・駐車場から遠い。迷いそう。(対応:クイズによる道案内看板の更新、道路の矢印表示などで対応した。)
・散策路や老朽化しているものがあり、見栄えが悪い。(対応:散策路の木製階段工の順次改修、泥濘の解消などに努めた。)

(5) 個人情報保護の取組み

・個人情報に関する指針を定め、職員に周知を図っており、適切な個人情報保護が図られている。

(6) 関係団体との連携

・保育園、幼稚園、小学校、地域の自治会等での出前講座を実施した。
・地元保育所、小学校などの校外学習サポート、環境教育を行った。
・「ねいの里自然塾の会」と連携し、行事を実施した。
・環境フェア、県立大学ダビンチ祭、おもしろ子供科学の祭典などへの参加、出展を行った。

(7) 施設・設備の維持管理

・各施設の整備点検、施設修繕を実施し、適切に管理されている。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

・熱中症対策としてエアコンを適切に使用
・園内や管内の巡視、不具合への対処(枯損木や樹木の処理、散策路の老朽化した階段工の補修など安全管理、イノシシ掘り起こしカ所の整地など)
・AEDの管理、講習会への参加
・新型コロナウイルス感染防止対策として、展示館の入口における検温器の設置及び各所でのアルコール消毒液の配置

10 所管課の管理運営確認状況

- ①定期報告の受理
- ②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③個人情報に関するトラブルの有無
- ④危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有／無	回数(有の場合)
有	12
有	12
無	-
無	-

【トラブルの具体的内容と対応】

なし

11 今後の課題等（収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載）

・夏の猛暑や大雪の影響で利用者の伸びは鈍かった。天候に左右されずらい、室内でも楽しめる、更なる利用促進策を検討する必要がある。
・大雪時は、駐車場から展示館までの距離が長く、除雪車の能力不足、故障により厳しい状況に陥った。冬季の営業について弾力的な対応が必要である。
・屋外での自然体験に対する潜在的なニーズを来館につなげるために、マスコミへの情報発信、SNSの利用の他、学校、イベントへの出前講座に、今後も積極的に取り組む必要がある。
・新規及びリピーターの利用促進につなげるため、積極的に出前講座を活用する必要がある。
このことから、引き続き、利用者の安全を第一としつつ、業務の効率化による経費節減に努めながら、施設目的の達成と、現在の利用者のニーズに的確に対応した管理運営に取り組む必要がある。
・施設の老朽化による修繕箇所頻発、近年増えたイノシシなどによる屋外園の掘り起こしなど、利用者の安全、快適性を損なう事案が頻発しており、迅速な修理、修復対応が必要である。